

# 2016 年度事業活動報告書



2017 年 6 月

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

## ユネスコ憲章前文

この憲章の当事国政府は、その国民に代って次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳、平等、相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人類の不平等という教義をひろめることによって可能とされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和は、それが失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るために、この伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

## 1. 福岡ユネスコ文化講演会

(1) テーマ：『ヘヴンズ ストーリー』のその先へ」映画上映及び対談（福岡市開催）

日 時：2016年6月26日（日） 10：30～17：45

会 場：福岡市総合図書館映像ホール「シネラ」（福岡市早良区百道浜）

企画意図：実際に起こった母子殺人事件をモデルとしながら、20人以上の登場人物が複数の殺人事件をきっかけに繋がっていく全9章の壮大な映画『ヘヴンズ ストーリー』。4時間38分という上映時間の長さでフィルム作品であるために、上映される機会是非常に少ない。瀬々敬久監督との対談により、この作品がもつ人間、社会、自然・宇宙に対する深い意味合いについて、哲学、社会学や宗教学的視点から作品の世界を捉え直すもの。

内 容：映画上映：10時30分～16時（278分、途中食事休憩 50分）

対 談：16時15分～17時45分

### ・上映作品

『ヘヴンズ ストーリー』（2010年、35mm、カラー、278分）

製作：ヘヴンズプロジェクト、脚本：佐藤有記、監督：瀬々敬久

出演：つるおかもえぎ 崔岡萌希、ともはる 長谷川朝晴、おしなりしゅうご 忍成修吾、村上淳、ふきこしみつる 山崎ハコ、吹越満、片岡礼子、島田久作、光石研、佐藤浩市、柄本明

あらすじ：両親と姉を殺された幼い娘、妻子を殺された若い夫、理由なき殺人を犯した青年そしてその青年と家族になろうとする女性、一人息子を育てながら復讐代行を副業にする警官などを中心に、20人以上の登場人物が複数の殺人事件をきっかけに繋がっていく、全9章の映画。

2010年キネマ旬報ベストテン第3位。ベルリン映画祭国際批評家連盟賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞

### ・対談者

・瀬々敬久（ぜぜ・たかひさ）氏

1960年大分県生まれ。映画監督

京都大学文学部哲学科卒業。ピンク映画の助監督を務めた後、1989年に『課外授業 暴行』で商業映画監督デビューして、ピンク大賞新人監督賞を受賞。思想的・社会的視点を取り入れてピンク映画、テレビのドキュメンタリー作品、『感染列島』（09年）や『64ーロクヨン』（16年、日刊スポーツ映画大賞作品賞受賞）のようなメジャー映画の大作等様々な作品を発表している。

・関 一敏（せき・かずとし）氏

1949年神奈川県生まれ。九州大学名誉教授。NPO法人ウェルビーイング附属研究所主席研究員

東京大学大学院人文科学研究科博士課程、パリ大学IV博士課程修了。筑波大学助教授、九州大学教授を歴任。

主な著書・編著書：『聖母の出現—近代フォーク・カトリシズム考』『宗教人類学入門』『中山みき・その生涯と思想』『岩波講座 宗教』

参加者：109人



瀬々敬久監督（右）と関一敏氏（左）の対談

『ヘヴンズ ストーリー』のその先へ  
福岡ユネスコ文化講演会 上映会&対談

# ヘヴンズ ストーリー

2010年、カラー、278分

『64 ロクヨン』『感染列島』の瀬々敬久監督作品

窪岡萌希 長谷川朝晴 忍成修吾 村上淳 山崎ハコ  
葉葉葉 吹越満 片岡礼子、嶋田久作 光石研  
佐藤浩市 柄本明

全9章、4時間38分。  
35mm フィルム、たった一日限りの上映  
ある殺人事件をきっかけに絡み合い、複雑につながり合っていく運命たち…

## 神の仕業なのか？

**6/26(日)** 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ  
福岡市早良区百道浜3丁目7-1

【映画上映】10:30~16:00  
(途中休憩15分、50分)

【対談】16:15~17:45

観覧料：1,200円(一般) 1,000円(一般予約) 500円(学生・留学生)

※上映と対談は、セット料金で、上映のみでも観覧可能です。  
※お支払い、即座し10%、ホール内の飲食は禁止ですが、食事等の出入りは可能です。ただし上映中・対談中の機嫌な出入りは厳禁させていただきます。  
主催：一般財団法人 福岡ユネスコ協会 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会

**対談**

瀬々敬久 関一敏氏

1960年大分県生まれ、映画監督  
京都大学文学部哲学科卒業後、電子プロダクション所属。1989年に『渡外投資』で独立映画監督デビュー。シネマ、テレビ、ラジオ、ドキュメンタリー作品の演出も担当する。本作はキヌマ旬報ベストテン第3位、ベルリン検閲祭国際批評家連盟賞、第58回文壇科学大賞受賞作。

関一敏 せきかずとし氏

1949年神奈川県生まれ、九州大学名誉教授、NPO法人ウエルビーイング附属研究所 主席研究員  
東京大学大学院人文科学研究科博士課程、パリ大学IV博士課程修了後に筑波大学助教授、九州大学教授を歴任。主な著書『編纂学』『監視の文化—近代「フォーク・カントリー・ミュージック」新しい民俗学へ』『京大教員入門』『中山みき—その生涯と思想』

予約は、氏名・連絡先を明記の上、Eメール：[fuunesco2014@gmail.com](mailto:fuunesco2014@gmail.com) FAX：092-733-1291まで

問合せ：一般財団法人福岡ユネスコ協会 (平日10~17時) 福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768 URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

(2) テーマ：外国文学を読む。訳す。～柴田元幸氏による講演と朗読の夕べ～（北九州市開催）

日 時：2017年3月20日（月・春分の日） 17:30～19:30

会 場：コワーキングスペース秘密基地（北九州市小倉北区京町）

共 催：北九州市

企画意図：現代アメリカ文学が同時代的に日本で読めるのはこの人の旺盛な翻訳活動のおかげである、といっても過言でなくらいに、米国作家の先鋭的作品の紹介を続けてきた翻訳家・柴田元幸氏に翻訳文学、外国文学について語っていただくもの。

講 師：柴田元幸氏（翻訳家、東京大学名誉教授）

講師略歴：1954年東京都生まれ。

1984年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得

1995年ポール・オースター著『ムーン・パレス』の翻訳で BABEL 国際翻訳大賞  
日本翻訳大賞を受賞。

1999年東京大学人文科学系研究科英語英米文学専攻助教授、2004年教授

2014年東京大学名誉教授

2010年トマス・ピンチョン『メイスン&ディクスン』で第47回日本翻訳文化賞  
受賞

主な翻訳書：『幽霊たち』以来のポール・オースター作品、フィリップ・ロス『父の遺産』、スティーヴ・エリクソン『ゼロヴィル』等アメリカ現代文学の翻訳多数。共著に村上春樹との『文学夜話』『文学夜話2』等

参加者：70人



講演する柴田元幸氏



著書サイン会





## 2. 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

**目 的**：福岡市が他都市に先駆けて長年取り組んできている、福岡市のアジア施策の柱の一つである「福岡アジア文化賞」の過去の受賞者を招聘して、その人の最新の研究成果や現代の日本人が課題として共有できるようなテーマでご講演いただき、質の高い文化情報を福岡から発信するもの。福岡市教育委員会との共催事業

**テーマ**：「インドから見たアジアの未来」

**日 時**：2016年12月11日（日）13：30～16：30

**会 場**：電気ビル本館カンファレンス 8号大会議室（福岡市中央区渡辺通2丁目）

**共 催**：福岡市教育委員会

**協 力**：福岡アジア文化賞委員会

**内 容**：

(1) アシシュ・ナンディ氏による講演（13：40～14：40、同時通訳）

(2) 対談（14：50～16：20、同時通訳）

講演後に、アシシュ・ナンディ氏と藤原帰一氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）と対談を行い、講演のテーマについて話を深めます。

**講 師**：アシシュ・ナンディ氏（ASHIS NANDY、社会・文明評論家、2007年福岡アジア文化賞大賞受賞者、インド）

対談相手は藤原帰一氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

・講師略歴

①アシシュ・ナンディ氏

社会・文明評論家

1937年 インド、ビハール州バーガルプル生まれ

1961年 ナーグプル大学大学院修士課程修了

1965年 発展途上社会研究センター研究員、のち所長

2006年 インド社会科学研究会議・国家指名会員

2007年 福岡アジア文化賞大賞受賞

主な著書に“*At the Edge of Psychology : Essays in Politics and Culture*” (1980) “*Creating a Nationality*” (1995) “*Talking India*” (2006)など多数

②藤原帰一氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

専門は国際政治、比較政治学、東南アジア現代政治

1956年 東京都生まれ

1984年 東京大学大学院博士課程修了

千葉大学助教授を経て、東京大学社会科学研究所助教授

1999年から現職

著書に『デモクラシーの帝国——アメリカ・戦争・現代世界』（2002）『平和のリアリズム』（2004、石橋湛山賞受賞）『映画の中のアメリカ』（2006）『戦争の条件』（2013）など多数

**参加者**：80人



アシシュ・ナンディ氏による講演



対談者 藤原帰一氏



ナンディ氏と藤原氏の対談

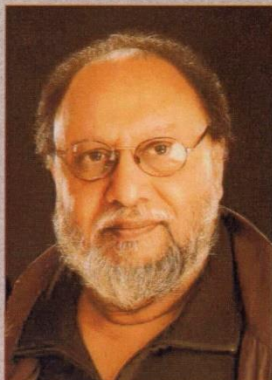




平成28年度福岡ユネスコ・アジア文化講演会

# 「インドから見たアジアの未来」

近年経済発展が著しい南アジアの大国インドは、中国と国境を接し、また西アジアとの文化的な関係も強く、アジアの中でその存在感を増しつつあります。日本からは距離も遠く、まだ身近な国というわけではありませんが、長い歴史に裏づけられた世界観を持つインドから見ると、日本の姿は、アジアの未来はどのように見えるのでしょうか。



講演 (13:40~14:40、同時通訳)

**アシシュ・ナンディ氏**  
(ASHIS NANDY、社会・文明評論家、  
2007年福岡アジア文化賞大賞受賞者、インド)

- 1937年 インド、ビハール州バーガルプル生まれ
- 1961年 ナーグプル大学大学院修士課程修了
- 1965年 発展途上社会研究センター研究員、のち所長
- 2006年 インド社会科学研究会議・国家指名会員
- 2007年 福岡アジア文化賞大賞受賞

対談 (14:50~16:20、同時通訳)

対談者：**藤原帰一氏**  
(東京大学大学院法学政治学研究科教授)



- 専門は国際政治、比較政治学、東南アジア現代政治
- 1956年 東京都生まれ
  - 1984年 東京大学大学院博士課程修了
  - 千葉大学助教授を経て、東京大学社会科学研究所助教授
  - 1999年から現職
  - 著書に『平和のリアリズム』(2004、石橋湛山賞受賞)など多数

2016年

**12月11日(日)13:30~16:30**

**電気ビル本館**(地下2階)8号大会議室

福岡市中央区渡辺通2丁目

**料金** 一般:事前申込 1,000円(当日1,200円)  
学生・留学生 500円(事前・当日とも)

申込み方法

催事名(「アシシュ・ナンディ講演会」)、氏名(参加者全員)、連絡先FAXまたはメールアドレス等を明記の上、FAXかメールでお申し込み下さい。

- メールアドレス: [fuunesco2014@gmail.com](mailto:fuunesco2014@gmail.com)
- FAX: 092-733-1291

定員:定員180名になり次第締め切らせていただきます。

福岡ユネスコ協会 検索

主催  
問合せ

一般財団法人  
**福岡ユネスコ協会** (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

共催:福岡市教育委員会 協力:福岡アジア文化賞委員会

### 3. 福岡ユネスコ文化セミナー

テーマ：メディアは、いま機能しているのか？ —ジャーナリズムの再生をめざして—

日時：2017年1月29日（日） 10:30～17:00

会場：電気ビル共創館3階カンファレンス大会議室（福岡市中央区渡辺通）

企画意図：ジャーナリズムの最も大事な役割は「国民の知る権利」を支え、「権力のチェック、監視」機能を果たしていくことです。戦後、ジャーナリズムは新聞、雑誌、テレビなどのマスコミュニケーションを媒体として社会のありようを正確に伝えることを通して「国民の知る権利」を支え、日本の民主主義を守り育てるために大きな役割を果たしてきた。

しかし、近年、新聞や雑誌を読む人の数が急速に低下しており、またテレビは視聴率を重視することにより視聴者に伝わりにくいニュースは敬遠される傾向にあるなどジャーナリズムが危機に陥っている。一方、新聞やテレビに代わって成長しつつあるインターネットを中心にした新しいメディアは、まだ広範な影響力を持つまでには至っていない現況にある。

このような中で、ジャーナリズムが本来の機能を果たすために何が必要なのかなどメディアをめぐる課題を探っていくもの。

#### 内容：

##### ①パネリスト発表

10:35～11:15 稲垣えみ子氏（元朝日新聞記者）「マスコミなんていない？」

11:20～12:00 金平茂紀氏（テレビ報道記者）「御用記者・御用学者・御用文化人」

13:00～13:40 前泊博盛氏（沖縄国際大学大学院教授）「沖縄報道にみるメディアの限界と処方箋～無視と無知と無関心からの脱却～」

13:45～14:25 津田大介氏（ジャーナリスト／メディア・アクティビスト）「「ポスト事実」時代のメディアリテラシーとメディアの役割」

##### ②討議 14:40～16:40

コーディネーター：岩下明裕氏（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授兼九州大学アジア太平洋未来研究センター教授）

#### 講師及び略歴

①岩下明裕氏：1962年熊本県生まれ。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授兼九州大学アジア太平洋未来研究センター教授

九州大学大学院法学研究科博士課程修了

山口県立大学、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教授を経て同センター教授。

主な著書：『「ソビエト外交パラダイム」の研究』『北方領土問題』（大佛次郎論壇賞受賞）『領土という病』（編著）『入門 国境学』など。

②稲垣えみ子氏：1965年愛知県生まれ。元朝日新聞記者

1987年に一橋大学社会学部卒業後朝日新聞社に入社。

高松支局、京都支局を経て、1991年から大阪本社社会部

2016年1月朝日新聞社を退社

著書に『震災の朝から始まった』『アフロ記者が記者として書いてきたこと。退職したからこそ書けたこと』など。

③金平茂紀氏：1953年北海道生まれ。ジャーナリスト／テレビ報道記者、TBS『報道特集』メインキャスター、早稲田大学大学院客員教授  
東京大学文学部社会学科卒業後1977年にTBS入社  
モスクワ支局長、ワシントン支局長を務め「筑紫哲也NEWS23」編集長、報道局長などを歴任。

著書に『テレビニュースは終わらない』『抗うニュースキャスター』など

④前泊博盛氏：1960年沖縄県生まれ。沖縄国際大学大学院教授、元琉球新報論説委員長  
駒沢大学法学部卒業、明治大学大学院政治経済学研究科博士前期課程修了  
1984年琉球新報社入社。文化部、社会部、東京報道部、経済部などを経て編集委員。  
論説委員長を経て、現職

著書に『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』など

⑤津田大介氏：1973年東京都生まれ。ジャーナリスト／メディア・アクティビスト、(有)ネオログ代表取締役

早稲田大学社会科学部卒業

大学在学中からIT関連のライターとして活動

2011年から有料のメールマガジン『メディアの現場』の配信開始

著書に『ウェブで政治を動かす』、池上彰氏と共著『メディアの仕組み』など

参加者：120人



発表する稲垣えみ子氏





発表する金平茂紀氏



コーディネーターの岩下明裕氏



討議での前泊博盛氏（左）と津田大介氏（右）



## 福岡ユネスコ文化セミナー

いま、ジャーナリズムが危機に陥っています。

新聞や雑誌を読む人の数が近年急速に低下しており、テレビは視聴率を重視するあまり、視聴者に伝わりにくいニュースは敬遠される傾向にあります。一方、新聞やテレビに代わって成長しつつあるインターネットを中心とした新しいメディアは、まだ広範な影響力を持つまでには至っていません。

戦後、ジャーナリズムは新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアを媒体として、社会のありようを正確に伝えることを通して「国民の知る権利」を支え、民主主義を守り育てる上で大きな役割を果たしてきました。

いま、ジャーナリズムが本来の機能を果たすために、メディアには何が必要なのか。メディアをめぐる課題について考えてみます。



コーディネーター  
**岩下明裕** 氏  
(いわたあきひろ)

**Akihiro Iwashita**

1962年熊本県生まれ。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授兼九州大学アジア太平洋未来研究センター教授  
▶九州大学大学院法学研究科博士課程修了。山口県立大学、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教授を経て同センター教授。2016年1月から九州大学アジア太平洋未来研究センター教授を兼任▶主な著書に『ソビエト外交パラダイム』の研究』『中・口国境 4000キロ』『北方領土問題』（大佛次郎論壇賞受賞）『入門 国境学』など。

# MEDIA?

## メディアは、いま機能しているのか？

—ジャーナリズムの再生をめざして—



**Shigenori Kanehira**  
**金平茂紀** 氏  
(かねひら・しげのり)

1953年北海道生まれ。テレビ報道記者、『報道特集』メインキャスター、早稲田大学大学院客員教授▶東京大学文学部社会学科卒業後1977年にTBS入社▶モスクワ支局長、ワシントン支局長を務め「筑紫哲也NEWS23」編集長、報道局長などを歴任▶著書に「テレビニュースは終わらない」『抗うニュースキャスター』ほか



**Emiko Inagaki**  
**稲垣えみ子** 氏  
(いながき・えみこ)

1965年愛知県生まれ。▶1987年に一橋大学社会学部卒業後朝日新聞社に入社▶高松支局、京都支局を経て、1991年から大阪本社社会部、2016年1月朝日新聞社を退社▶著書に『魂の退社 会社を辞めるということ』『アフロ記者が記者として書いてきたこと』退職したからこそ書いたこと』ほか



**Hiromori Maedomari**  
**前泊博盛** 氏  
(まえどまり・ひろもり)

1960年沖縄県生まれ。ジャーナリスト、沖縄国際大学大学院教授▶駒沢大学法学部卒業、明治大学大学院政治経済学研究所博士前期課程修了後1984年琉球新報入社▶文化庁、社会部、東京報道部、経済部等を経て編集委員、論説委員長▶著書に『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』ほか



**Daisuke Tsuda**  
**津田大介** 氏  
(つだ・だいすけ)

1973年東京都生まれ。ジャーナリスト、ポリタス編集長▶早稲田大学社会科学部卒業。大学在学中から「T」関連のライターとして活動▶2011年から有料のメールマガジン『メディアの現場』の配信開始▶著書に『ウエブで政治を動かす』、池上彰氏と共著『メディアの仕組み』ほか

2017年

**1月29日**(日) 10:30~17:00

電気ビル共創館(3階)カンファレンス大会議室  
福岡市中央区渡辺通2丁目

料金

一般:事前申込 1,500円(当日1,700円)  
学生・留学生 1,000円(事前・当日とも)

申し込み方法

催事名(「メディアに関するセミナー」、氏名(参加者全員)、連絡先FAXまたはメールアドレス等を明記の上、FAXかメールでお申し込み下さい。

●メールアドレス: [fuunesco2014@gmail.com](mailto:fuunesco2014@gmail.com)  
●FAX: 092-733-1291

定員:定員180名になり次第締め切らせていただきます。

福岡ユネスコ協会

検索

主催  
問合せ

一般財団法人  
**福岡ユネスコ協会** (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

#### 4. 福岡ユネスコ研究講演会

**目 的**：九州出身あるいは九州で活躍している研究者の日頃の研究内容を市民向けに少しわかり易い形で講演してもらい、その講演録をブックレット化することにより、地元研究者と市民の接点を作るとともに研究者とのネットワークづくりを進めるもの。

**テーマ**：「国境が持つ可能性—日本と隣国の最前線を見る」

**日 時**：2016年8月6日（土）13：30～

**会 場**：天神ビル10号ホール（福岡市中央区天神2丁目）

**企画意図**：国境はその面する両国のハイブリッドな要素を持って、その地を文化的にも豊かにしてくれるという視点から、海に囲まれ隣国との接点が少ない島国・日本において、ゲートウェーとしての国境観光など国境の持つ可能性について考える。

**講 師**：岩下明裕氏（いわした・あきひろ、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授兼九州大学アジア太平洋未来研究センター教授）

**講師略歴**：1962年熊本県生まれ。

九州大学大学院法学研究科博士課程修了。山口県立大学、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教授を経て同センター教授。

主な著書：『「ソビエト外交パラダイム」の研究』『北方領土問題』（大佛次郎論壇賞受賞）『領土という病』（編著）『入門 国境学』など。

**参加者**：50人



講師の岩下明裕氏





# 「ボーダー 国境が持つ可能性」 — 日本と隣国の最前線を見る —

ボーダー  
国境とは何だろう。陸や山や海にひかれた一本の線。目に見えることもあれば、見えないこともある。あちらとこちらでは政治も通貨も文化も制度的には異なってしまう重要な線。日本では今、北方領土、竹島(独島)そして尖閣諸島が隣国と問題を抱えた地域となっている。しかし、国境地域にも人が住み、生活を営んでいる。地域住民の目から国境はどのように見えるのだろうか。ゲートウェーとしての国境観光は成り立つのか。豊富な現場体験を踏まえて、海に囲まれ隣国との接点が少ない島国・日本における国境の持つ可能性を考える。



講師

岩下明裕(いわした・あきひろ)氏

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授、九州大学アジア太平洋未来研究センター教授  
1962年熊本県生まれ  
九州大学大学院法学研究科博士課程修了  
山口県立大学、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教授を経て同センター教授、現在九州大学教授を兼任  
主な著書:『ソビエト外交パラダイム』の研究(国際書院)『中・日国境4000キロ』(角川選書)『北方領土問題』(中公新書、大佛次郎論壇賞受賞)『領土という病』(編著、北海道大学出版会)『北方領土・竹島・尖閣、これが解決策』(朝日新書)『入門国境学』(中公新書)など。

2016年 8月6日(土) 13:30~16:00

天神ビル11階10号ホール  
(福岡市中央区天神2-12-1)

料金 一般:事前申込 1,000円(当日1,200円)  
学生・留学生 500円(事前・当日とも)

申込み方法

催事名(「岩下明裕講演会」)、氏名(参加者全員)、連絡先 FAXまたはメールアドレス等を明記の上、FAXかメールでお申し込み下さい。(締め切り8/4)

- メールアドレス: [fuunesco2014@gmail.com](mailto:fuunesco2014@gmail.com)
- FAX: 092-733-1291

福岡ユネスコ協会 検索

主催 一般財団法人 福岡ユネスコ協会 (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

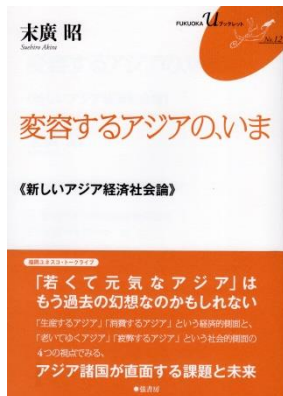
## 5. ブックレット等の出版物の刊行

当協会で開催する文化講演会の講演内容や活発な討論の記録を広く伝えるためにブックレット形式の「FUKUOKA U ブックレット」シリーズとして、また文化セミナーについても単行本として地元の出版社弦書房等から発刊し、全国の一般書店で販売することにより、当協会の継続的な活動を紹介している。

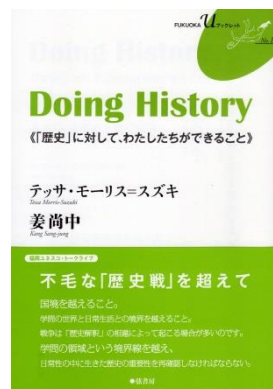
### ①「FUKUOKA U ブックレット」

第12号 末廣昭著『変容するアジアの、いま 《新しいアジア経済社会論》』  
(2016年9月30日発行、弦書房)

第13号 テッサ・モーリス＝スズキ、姜尚中著『Doing History 《「歴史」に対して、  
私たちができること》』(2017年1月30日発行、弦書房)

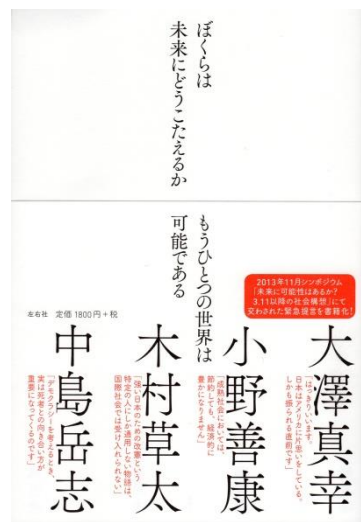


ブックレット第12号



ブックレット第13号

②単行本 大澤真幸、小野善康、木村草太、中島岳志著『ぼくらは未来にどうこたえるのか』(2016年5月10日発行、左右社)





# 一般財団法人福岡ユネスコ協会略年表 (4) <通算 52>

— 2016年4月～2017年3月 —

## 2016年

(平成 28年)

- 5月25日(水) 第1回理事会開催  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス E会議室
- 6月8日(水) 定時評議員会開催  
於：福岡市中央区渡辺通「電  
気ビル本館」第1会議室
- 6月26日(日) **福岡ユネスコ文化講演会－映画上映&対談**  
講師：瀬々敬久氏(映画監督)、関一敏(九州大学  
名誉教授)  
テーマ：『ヘヴンズ ストーリー』のその先へ  
於：福岡市早良区百道浜  
福岡市総合図書館映像ホー  
ル「シネラ」
- 8月6日(土) **福岡ユネスコ研究講演会**  
講師：岩下明裕氏(北海道大学教授兼九州大学教授)  
テーマ：「国境が持つ可能性－日本と隣国の最前線  
を見る」  
於：福岡市中央区天神  
天神ビル10号ホール
- 11月2日(水) 第2回理事会  
於：福岡市中央区渡辺通「電  
気ビル本館」第1会議室
- 12月11日(日) **福岡ユネスコ・アジア文化講演会**  
講師：アシシュ・ナンディ氏(社会文明評論家、2007  
年福岡アジア文化賞大賞受賞者)  
テーマ：「インドから見たアジアの未来」  
対談相手：藤原帰一氏(東京大学教授)  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル本館」8号大会  
議室

## 2017年

(平成 29年)

- 1月29日(日) **福岡ユネスコ国際文化セミナー**  
テーマ：「メディアは、いま機能しているのか？  
－ジャーナリズムの再生をめざして－」  
コーディネーター：岩下明裕氏(北海道大学教授兼  
九州大学教授)  
パネリスト：稲垣えみ子氏(元朝日新聞記者)  
金平茂紀氏(テレビ報道記者)  
前泊博盛氏(沖縄国際大学大学院教授)  
津田大介氏(ジャーナリスト/メディアアクティビ  
スト)  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス 大会議室
- 3月20日(月・  
春分の日) **福岡ユネスコ文化講演会(北九州市)**  
講師：柴田元幸氏(翻訳家)  
テーマ：「外国文学を読む。訳す。～柴田元幸氏に  
よる講演と朗読の夕べ～」  
於：北九州市小倉北区京町  
コワーキングスペース秘密  
基地
- 3月30日(木) 第3回理事会開催  
於：福岡市中央区渡辺通「電  
気ビル本館」第1会議室

福岡ユネスコ協会の国際文化会議、シンポジウム、セミナー(通年の記録)

International Cultural Exchange Program Sponsored  
by the Fukuoka UNESCO Association

開催年	催し	テーマ
1) 1962	第1回九州国際文化会議	「日本における東西文化の接点としての九州」
2) 1967	第2回九州国際文化会議	「日本近代化と九州の役割」
3) 1971	第1回日本研究国際セミナー	「アジアにおける日本」
4) 1972	第3回九州国際文化会議	「アジアにおける日本」
5) 1974	第2回日本研究国際セミナー	「新しい日米関係を考える」
6) 1977	第4回九州国際文化会議	「戦後33年の日本」
7) 1979	国際シンポジウム	「マスメディアと国際理解を促す諸条件」
8) 1982	第5回九州国際文化会議	「80年代の国際社会と日本」
9) 1983	'83 福岡国際シンポジウム	「都市の国際化」
10) 1984	'84 福岡国際シンポジウム	「国際化と教育」
11) 1985	'85 福岡国際シンポジウム	「国際化とコミュニケーション」
12) 1986	第3回日本研究国際セミナー	「海外における日本研究の課題と展望」
13) 1987	第6回九州国際文化会議	「現代の日本と世界」
14) 1988	東アジア研究・福岡国際文化会議 '88	「一国連大学研究・研修センター誘致推進」
15) 1989	第4回日本研究国際セミナー '89	「日本の近代文学と芸術」—明治期—
16) 1990	第5回日本研究国際セミナー '90	「日本の近代文学と芸術」—大正期～昭和初期—
17) 1991	第6回日本研究国際セミナー '91	「日本の近代文学と芸術」—戦前・戦中・戦後—
18) 1992	第7回九州国際文化会議	「90年代の世界と日本」
19) 1993	第7回日本研究国際セミナー '93	「アメリカにおける戦後日本の政治研究」
20) 1994	第8回日本研究国際セミナー '94	「近代への転換期における藤村文学」
21) 1995	戦後50年記念・国際シンポジウム '95	「戦後50年の日本の文化・社会・ジャーナリズムの思想的変容」

- 22) 1996 福岡国際シンポジウム'96 「日本の近・現代をめぐって  
—日・独近代化の視点から—」
- 23) 1997 第8回九州国際文化会議 「21世紀への課題と展望」
- 24) 1998 第9回日本研究国際セミナー'98 「ロナルド・ドーア教授の日本研究50年」
- 25) 1999 第10回日本研究国際セミナー'99 「ドナルド・キーン教授と日本文学」
- 26) 2000 第11回日本研究国際セミナー2000 「世界における日本研究と加藤周一」
- 27) 2001 第12回日本研究国際セミナー2001 「21世紀の世界と日本の課題」
- 28) 2002 第9回九州国際文化会議 「21世紀の世界と日本の選択」
- 29) 2003 第13回日本研究国際セミナー2003 「国民文学を考える  
—『宮本武蔵』と『竜馬がゆく』—」
- 30) 2004 第14回日本研究国際セミナー2004 「自由主義者 石橋湛山 的思想と評論」
- 31) 2005 第15回日本研究国際セミナー2005 「日本近代文学の回顧と展望—21世紀を迎えて—」
- 32) 2006 文化講演と討議 「政治と文学—今世紀の変容に応じて—」
- 33) 2007 創立60年記念国際文化セミナー 「日本の文化と心」
- 34) 2008 福岡国際文化セミナー2008 「続・日本の文化と心—日本語を基座として—」
- 35) 2009 福岡国際文化シンポジウム2009 「いま、アジアをどう語るか  
— 現代化と歴史認識のはざままで —」
- 36) 2010 福岡国際文化シンポジウム2010 「越境するアジアの文化 — 現状と可能性 —」
- 37) 2011 公開講演と学術シンポジウム 「辛亥革命と東アジア」
- 38) 2012 福岡国際文化セミナー2012 「山本作兵衛と日本の近代」
- 39) 2013 福岡ユネスコ文化セミナー2013 「未来に可能性はあるか? —3.11以降の社会構想—」
- 40) 2014 福岡ユネスコ文化セミナー2014 「アジア主義 —その先の近代へ」
- 41) 2015 福岡国際文化セミナー2015 「日韓メモリー・ウォーズ —日本人は何を知らないか—」
- 42) 2016 福岡ユネスコ文化セミナー 「メディアは、いま機能しているのか?  
—ジャーナリズムの再生をめざして—」

一般財団法人福岡ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の理念に基づき、教育、科学、文化を通じて国際理解を深め、地域社会におけるユネスコ活動の進展をはかることにより、世界平和に貢献することを目的として、ユネスコ精神に共鳴する有志が相集い相協力し合って、自主的にユネスコの理念の具体化を計るため、当地域（福岡）を基盤に諸文化活動、並びに国際文化活動を行う民間団体です。

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

〒810-0022 福岡市中央区薬院2丁目4-5-702

Tel : 092 (715) 8768 Fax : 092 (733) 1291

E-mail : [info@fukuoka-unesco.or.jp](mailto:info@fukuoka-unesco.or.jp)

HP : <http://fukuoka-unesco.or.jp>